

注意事項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味2時間10分である。
2. 試験問題の持帰りを認めない。
3. 解答方法は次のとおりである。

- (1) 各問題にはaからeまでの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを(例1)では一つ、(例2)では二つ選び答案用紙に記入すること。

(例1) 101 県庁所在地
はどれか。

- a 栃木市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

(例2) 102 県庁所在地はどれか。
2つ選べ。

- a 宇都宮市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

(例1)の正解は「c」であるから答案用紙の

101 a b c d e のうち c をマークして

101 a b c d e とすればよい。

(例2)の正解は「a」と「c」であるから答案用紙の

102 a b c d e のうち a と c をマークして

102 a b c d e とすればよい。

- (2) 答案の作成にはHBの鉛筆を使用し、濃くマークすること。

良い解答の例…… (濃くマークすること。)

悪い解答の例…… (解答したことにならない。)

- (3) 答えを修正した場合は、必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色が残ったり「」のような消し方などをした場合は、修正したことにならないので注意すること。
- (4) ア.(例1)の質問には二つ以上解答した場合は誤りとする。
イ.(例2)の質問には一つ又は三つ以上解答した場合は誤りとする。
- (5) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

1 娘が父親を在宅で介護したいと相談にきた。父は80歳で、脳梗塞のために片麻痺になり入院したが、リハビリテーションを受けずに3週後に退院した。退院後、意欲をなくし、おむつをして2階の部屋で寝たきりの状態で生活するようになった。娘夫婦が同居し、働いて生計を立てている。母親が面倒をみているが、父親が起立・歩行ができないため風呂に入れることはできない。母親も高齢のため何度も2階に行く介護生活に疲れてきており、体調不良を訴えるようになった。

娘への助言として適切でないのはどれか。

- a 訪問入浴介護を受ける。
- b 父親の居室を1階にする。
- c 仕事を辞めて介護をする。
- d 父親の親友に訪問を依頼する。
- e ホームヘルパーの派遣を依頼する。

2 30歳の男性。不眠、不安、食欲低下および体重減少を主訴として妻に伴われて来院し、精神科病棟へ任意入院した。身体所見で前腕の静脈に沿って注射痕が認められた。その翌朝から周囲の者に対する被害妄想と幻聴とを認めた。患者は「自分は病気ではないので退院する」と希望し、説得に応じようとしなない。検尿の結果、メタンフェタミンが検出された。自傷他害のおそれはない。

対応として適切なのはどれか。

- a 家族に引きとらせる。
- b 医療保護入院の手続きをする。
- c 保健所に措置入院を申請する。
- d 個室のベッド上に身体を拘束する。
- e 警察に届け出る。

3 ある疾患の A 町での罹患率が郡内で高いかどうかを調べるために、郡全体を標準集団として、A 町での標準化罹患率(%)を求めた。

年齢区分	標準集団			A 町		
	人口	罹患数	罹患率(%)	人口	罹患数	罹患率(%)
20~39 歳	2,500	50	2.0	100	1	1.0
40~59 歳	1,500	30	2.0	100	3	3.0
60~79 歳	1,000	50	5.0	300	15	5.0

正しいのはどれか。

- a 2.4%
- b 2.8%
- c 3.0%
- d 3.6%
- e 3.8%

4 9 か月の乳児。意識障害を主訴に母親に抱かれて救急外来を受診した。在胎 34 週、出生体重 1,550 g、経膈分娩で出生した。生後 2 か月に NICU から退院し、母親が育てていた。1 時間前にベッドから転落して意識がなくなったという。母親に取り乱した様子はみられない。身長 66 cm、体重 6,500 g。瞳孔不同と下顎呼吸とがみられる。左下腿と右肩とに 5 cm 大の出血斑があり、四肢に小さな古い傷痕を数個認める。頭部単純 CT で硬膜下血腫を認める。救急処置を行い入院させた。

次に行う対応として適切なのはどれか。

- a 医師会に連絡する。
- b 児童相談所に通報する。
- c 乳児院に入所手続きをとる。
- d 知り合いの弁護士に連絡する。
- e 古い傷痕について詳しく聞く。

5 25 歳の 1 回経産婦。現在妊娠 14 週である。風疹罹患が心配になり来院した。第 1 子が 1 週前に風疹に罹患しているが、妊婦には発疹や発熱などの症状はなく、風疹ワクチン接種の既往もない。妊娠 10 週時の血液検査の結果で風疹 HI 抗体価は 64 倍であった。身長 158 cm、体重 48 kg。血圧 110/70 mmHg。尿所見：蛋白(-)、糖(-)。内診と超音波検査とで異常を認めない。

この妊婦で正しいのはどれか。

- a 児に心奇形を発症するリスクは低い。
- b 風疹罹患の既往は不明である。
- c 周囲へ感染を拡大する可能性がある。
- d 風疹 IgM 抗体を測定する。
- e 流産の危険性が高い。

6 57歳の男性。近医で胸部異常陰影を指摘され、下記の紹介状を持って来院した。「3年前から糖尿病の治療中ですが、10日前から咳と痰、37℃前後の微熱および倦怠感が出現して持続するため、1週前に当院を受診しました。細菌性気管支炎と診断して経口抗菌薬を5日間投与しましたが改善せず、痰の絡まる咳が増強するため胸部エックス線撮影と胸部CTとを施行したところ、左上肺野に異常陰影を認めましたので精査をお願い申し上げます。昨日の検査成績は以下のとおりです。尿所見：蛋白(±)、糖2+。血液所見：赤沈73mm/1時間、赤血球423万、Hb12.3g/dl、白血球5,800、血小板16万。血清生化学所見：血糖183mg/dl、HbA_{1c}7.3% (基準4.3~5.8)、総蛋白6.6g/dl、アルブミン3.2g/dl、尿素窒素18mg/dl、クレアチニン1.0mg/dl。CRP8.6mg/dl。喀痰のGram染色標本では有意の細菌を認めませんでした。胸部単純CT(別冊No. 1)を添付しました。」

この患者の外来診察において適切なのはどれか。

- (1) 無菌室で診察する。
- (2) 独立した診察室で診察する。
- (3) 患者にマスクを着用させる。
- (4) 医師と看護師とがガウンを着用する。
- (5) 使用後の診察室を消毒薬で清拭する。

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

別冊

No. 1 写真

7 48歳の男性。管理職。産業医による健康測定の結果は以下のとおりであった。特に悩みはない。喫煙歴なし。飲酒は1日ビール大ビン2本、20年。身長164cm、体重70kg。血圧140/88mmHg。尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球480万、Hb16.0g/dl、白血球6,600、血小板30万。血清生化学所見：空腹時血糖112mg/dl、総蛋白6.8g/dl、クレアチニン1.1mg/dl、尿酸7.2mg/dl、総コレステロール260mg/dl、AST33単位、ALT38単位、γ-GTP80単位(基準8~50)、アミラーゼ140単位(基準37~160)。心電図、胸部エックス線写真および運動機能検査に異常を認めない。

トータルヘルスプロモーションプラン(THP)に基づき、この男性の問題点について指導するのはどれか。

- a 産業医
- b 保健師
- c 心理相談担当者
- d 産業栄養指導担当者
- e 産業保健指導担当者

8 都市部にある高校で生徒数の減少に伴い、一般教室の改装を行い美術の教室とした。ところが、新学期から美術の授業後に、頭痛、咳、皮疹および気分不快を訴える生徒が各クラスに数名発生し、学校医が相談を受けた。症状を訴えた何人かの生徒を診察したところ、発症は女子生徒に多く、一部の生徒にみられた軽い湿疹以外は他覚所見はない。

学校医の指示として適切でないのはどれか。

- a 窓の開閉禁止
- b 空調設備の点検
- c 改装用建材の調査
- d 当該教室の使用制限
- e 全校生徒の心身の症状調査

9 62歳の女性。労作時の息切れと倦怠感とのため来院した。2か月前から体のだるさを自覚し、3週前に階段を昇る時息切れが出現した。6年前に胃癌のため胃全摘術を受けているが最近を受診していない。意識は清明。脈拍108/分、整。血圧98/56 mmHg。眼瞼結膜は貧血様。下肢の感覚異常を認める。血液所見：赤血球125万、Hb 4.2 g/dl、Ht 14%、白血球3,500、血小板13万。

この患者に欠乏しているのはどれか。

- (1) 鉄
- (2) 銅
- (3) 葉酸
- (4) ビタミンB₆
- (5) ビタミンB₁₂

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

10 28歳の女性。未妊。無月経と嘔気とを主訴に来院した。最終月経から起算して無月経の期間は7週0日である。妊娠反応陽性。経膈超音波検査で子宮内に胎嚢と胎芽心拍動とを認める。

正しいのはどれか。

- a 基礎体温は低温相である。
- b 頸管粘液の牽糸性が増加している。
- c 子宮内膜に脱落膜変化がある。
- d 子宮体部は硬い。
- e 卵巣に卵胞発育がみられる。

11 28歳の褥婦。帝王切開で分娩後、悪露の分泌量は少なく、38.0℃の発熱を認めたため産褥6日目に診察した。子宮底長は臍高。経膈超音波検査で子宮腔内に広範なエコーフリースペースを認める。頸管を拡張したところ、悪臭のある褐色の悪露を多量に排出した。

適切な処置はどれか。2つ選べ。

- a 授乳停止
- b 温罨法
- c 抗菌薬投与
- d 子宮収縮促進薬投与
- e 抗凝固薬投与

12 3か月の乳児。体重増加不良を主訴に来院した。出生体重3,050g。母乳栄養。授乳後1～2時間で泣き、1回の授乳時間は20分以上であるという。嘔吐と下痢とはみられない。身長62cm、体重5,050g。体温37.2℃。呼吸数32/分。心拍数120/分、整。顔貌は正常。胸部に異常所見を認めない。腹部は平坦で、右肋骨弓下に肝を2cm触知する。

適切な対応はどれか。

- a 人工乳に変える。
- b 人工乳を追加する。
- c 糖水を追加する。
- d 離乳食を始める。
- e 精神安定薬を与える。

13 1歳7か月の女兒。「1歳6ヶ月児健康診査」で両側乳房の腫大を指摘され来院した。在胎40週、正常分娩で出生した。出生時の身長50.9cm、体重3,150g。頸定4か月、坐位8か月、ひとり歩き15か月。身長76.1cm、体重10.2kg。外表奇形は認めない。心肺に異常はない。腹部は平坦で、肝・脾は触れない。乳房の腫大はTanner分類のⅡ期に相当する。陰毛と初経とは認めていない。

まず行う検査はどれか。

- a LHRH試験
- b 腹部超音波検査
- c 頭部単純MRI
- d 乳房エックス線単純撮影
- e 手根骨エックス線単純撮影

14 20歳の女性。初めてビールを約50ml飲んだ直後から、顔面紅潮、頭痛および動悸が出現したため来院した。意識は清明であり、「父方の祖父、父と姉は全く飲酒できない。父方の祖母、母と兄は少しは飲めるが、普段は飲まない」と答えた。

患者への説明で正しいのはどれか。

- a エタノールの代謝が速い。
- b アセトアルデヒドの代謝が速い。
- c 訓練しても飲めるようにはならない。
- d アルコール依存症になりやすい。
- e 生活環境の関与が大きい。

15 40歳の初妊婦。胎児の染色体異常を心配し、妊娠15週に羊水染色体検査を受けた。既往歴、家族歴および妊娠経過に特記すべきことはない。羊水染色体検査の結果は47,XX,+21である。

この胎児について正しいのはどれか。

- a 先天代謝異常をきたす。
- b 女性半陰陽となる。
- c 特徴的な泣き声を呈する。
- d 内臓奇形の合併頻度が高い。
- e 出生後の平均生存期間は約130日である。

16 36歳の女性。発熱と乾性咳嗽とのため来院した。6月末から38℃台の不規則な発熱と咳嗽とが出現し、抗菌薬は効果なく7月末に入院した。入院後特に治療せずに経過を観察したところ症状の改善をみたため退院した。退院後数時間で再び乾性咳嗽、呼吸困難および38℃の発熱が出現し再入院した。意識は清明。体温38.5℃。呼吸数28/分。脈拍112/分。整。血圧120/80mmHg。チアノーゼなし。心雑音なし。両下肺野にfine crackles(捻髪音)を聴取する。血液所見：赤血球451万、Hb13.0g/dl、Ht39%、白血球8,000(好中球76%、好酸球4%、単球5%、リンパ球15%)、血小板42万。胸部エックス線写真で両下肺野に散在性粒状影を認める。

考えられるアレルギーの型はどれか。

- (1) I型(アナフィラキシー型)
- (2) II型(細胞毒性型)
- (3) III型(免疫複合体型)
- (4) IV型(遅延型)
- (5) V型(抗レセプター抗体型)

- a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

17 68歳の男性。1年6か月前に、直腸癌に対して直腸切断術を受けた。1週前の胸部エックス線写真で異常陰影が認められた。現在自覚症状はなく、全身状態は良好である。血清CEA値は19.8 ng/ml(基準5以下)で、胸腹部CTで右肺下葉に径2 cmの結節性病変を1個認めた。それ以外に異常はない。

この患者の治療方針として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 化学療法
- c 外科的切除
- d 放射線治療
- e 緩和ケア

18 39歳の男性。健診で高血圧を指摘され、精査を希望して来院した。常用薬はない。身長174 cm、体重86 kg。脈拍72/分、整。血圧170/98 mmHg。腹部に血管雑音を聴取しない。血清生化学所見：空腹時血糖80 mg/dl、総蛋白7.5 g/dl、アルブミン5.0 g/dl、尿素窒素10 mg/dl、クレアチニン0.9 mg/dl、総コレステロール240 mg/dl、Na 144 mEq/l、K 3.0 mEq/l、Cl 102 mEq/l。血漿レニン活性0.1 ng/ml/時(基準1.2~2.5)。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)：pH 7.52、PaO₂ 90 Torr、PaCO₂ 43 Torr、HCO₃⁻ 34.0 mEq/l。

最も考えられるのはどれか。

- a 褐色細胞腫
- b 本態性高血圧症
- c 腎血管性高血圧症
- d 睡眠時無呼吸症候群
- e 原発性アルドステロン症

19 42歳の男性。右手への放射線被曝のために来院した。ガンマ線照射装置を使い、工場内の放射線装置室で、圧力容器の放射線検査を担当している。一か所の検査を終えた後、自動遠隔操作で放射線源を線源容器に収納しようとしたが、装置不具合が発生したため、手動に切り替えて作業を行った。その際、放射線源が本来の向きとは逆向きに線源容器に収納されたが、気付かずに次の検査を行おうとしたため、右手が直接に露出した放射線源に触れて被曝した。当日はそのまま帰宅したが、翌日同僚に付き添われて来院した。自覚症状はない。右手皮膚の色調は正常。手指に感覚異常を認めない。他の身体所見に異常はない。

この患者への対応で適切なのはどれか。

- a 異常はないと説明する。
- b 経過観察を行う。
- c 3時間ごとに白血球数を測定する。
- d 骨髄検査を行う。
- e ヨード薬を投与する。

20 65歳の男性。2週間前から徐々に全身倦怠感と四肢脱力とが出現し、起立が困難になったので来院した。1か月前から心不全による両下肢の浮腫に対してループ利尿薬が処方され、毎日服用していた。意識は清明で、四肢近位筋優位の筋力低下を認めるが、感覚と深部(腱)反射とは正常である。甲状腺機能検査に異常を認めない。

異常が予測されるのはどれか。

- (1) 血清電解質
- (2) 血清クレアチンキナーゼ
- (3) 脳脊髄液
- (4) 頭部造影CT
- (5) 頸部単純MRI

- a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

21 76歳の男性。高熱を主訴に来院した。Parkinson病で日常生活動作(ADL)が低下していたが、3日前から黄色の喀痰が増加し、前日からは高熱が出てほとんど動かなくなった。肺炎のため当日入院した。ペニシリン系抗菌薬による治療を開始して、肺炎の症状は改善した。入院時に発赤がみられた仙骨部の皮膚が、入院5日目の清拭時に径3cm大で黒褐色に変色し、周辺部に腫脹と熱感とを伴うようになってきた。

この病変部の治療として最も重要なのはどれか。

- a 洗 淨
- b 消 毒
- c デブリドマン
- d 外用抗菌薬塗布
- e 経口抗菌薬の変更

22 17歳の女子。やせを心配した母親に連れられて来院した。10か月前から現在までに15kgやせた。4か月前から無月経となった。最近、学校で昼食の弁当の中身を捨てていることに担任の教師が気づき、病院に受診させるよう母親に勧めたという。身長158cm、体重31kg。

この患者でみられるのはどれか。

- (1) 活動性低下
 - (2) 低体温
 - (3) 徐 脈
 - (4) 高カリウム血症
 - (5) 高プロラクチン血症
- a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

23 2歳の男児。浜辺で遊んでいるうちにぐったりして、けいれんと嘔吐とを起こしたため救急車で搬送された。昨日から家族と海水浴に来ている。患児は風邪気味であったが、昨日も海水パンツのまま日差しの強い浜辺で元気よく遊んだ。今日も朝から浜辺で遊んでいた。昼前からのどの渴きを訴えて頻繁に水を飲んでしたが、排尿はない。午後3時ころ、ぐったりして、その後けいれんを起こし、嘔吐した。来院時、呼びかけには応じるが、傾眠状態である。全身の皮膚に発赤と腫脹とを認める。体温39.0℃。呼吸数36/分。脈拍128/分、整。血圧86/50mmHg。血液所見：赤血球430万、Hb14.0g/dl、Ht42%、白血球9,800。血清生化学所見：Na135mEq/l、K4.0mEq/l、Cl93mEq/l。

最も適切な処置はどれか。

- a 5%ブドウ糖液輸液
- b 乳酸加リンゲル液輸液
- c 解熱鎮痛薬投与
- d 利尿薬投与
- e 抗菌薬投与

24 60歳の男性。2日前から発熱と下痢とが続くため、救急車で来院した。今朝から排尿は1回だけである。意識は傾眠。身長170cm、体重50kg。体温37.8℃。脈拍120/分、整。血圧110/86mmHg。尿所見：浸透圧500mOsm/l(基準50~1,300)、蛋白1+、糖(-)、ケトン体3+。血液所見：赤血球470万、Hb15.6g/dl、Ht46%、白血球10,000。血清生化学所見：尿素窒素50mg/dl、クレアチニン2.0mg/dl、AST32単位、ALT18単位、Na147mEq/l、K5.0mEq/l。CRP2.0mg/dl。

この患者でみられるのはどれか。

- a 奇 脈
- b 腹 水
- c 下腿浮腫
- d 皮膚緊張低下
- e 坐位での頸静脈拍動

25 60歳の女性。指間の皮疹を主訴に来院した。関節リウマチで3年前から内服薬治療を受けている。最近、指間に痒みのある皮疹を生じ、市販の副腎皮質ステロイド薬を塗布したが、無効であった。指間部の写真(別冊No. 2)を別に示す。

まず行う検査はどれか。

- a 細菌培養
- b 皮膚生検
- c 外用薬の貼付試験
- d KOH法による直接鏡検
- e 内服薬のリンパ球刺激試験

別冊
No. 2 写真

26 20歳の男性。1週間からの両眼の充血と眼脂とを訴えて来院した。眼脂の塗抹Giemsa染色標本(別冊No. 3)を別に示す。

診断はどれか。

- a アレルギー性結膜炎
- b ウイルス性結膜炎
- c クラミジア結膜炎
- d 細菌性結膜炎
- e 真菌性結膜炎

別冊
No. 3 写真

27 42歳の女性。最近、匂いが分からないことに気付いて受診した。10年前から粘膿性鼻漏、後鼻漏および鼻閉塞を自覚している。

嗅覚障害の原因として最も考えられるのはどれか。

- a 鼻中隔彎曲症
- b アレルギー性鼻炎
- c 慢性副鼻腔炎
- d 副鼻腔嚢胞
- e 上顎癌

28 3歳の男児。呼吸困難を主訴に母親に連れられて来院した。歩行時にしゃがみ込むことがある。意識は清明。身長90cm、体重13kg。口唇にチアノーゼがある。第3肋間胸骨左縁に3/6度の収縮期雑音を聴取し、II音は単一である。血液所見：赤血球550万、Hb17.2g/dl、Ht52%、白血球6,900。

この患児でみられるのはどれか。

- a 喘鳴
- b 嘔声
- c 胸水
- d ばち指
- e 陥没呼吸

29 75歳の女性。3か月前から下着が汚れるようになったので受診した。特に歩行時に膣から球のようなものが出てきて、下着が汚れる。ベッドに横になると引っ込むという。診察では、膣前壁が膣口から球状に飛び出している。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、沈渣に赤血球1~2/1視野、白血球2~3/1視野。血液所見と血清生化学所見とに異常はない。

この患者でみられないのはどれか。

- a 排尿痛
- b 排尿困難
- c 残尿
- d 尿失禁
- e 二段排尿

30 61歳の女性。元気のない様子を心配する家族に連れられて来院した。生来健康であり、家庭生活にも社会生活にも問題はなかった。親、子供および兄弟姉妹に精神障害に罹患している者はいない。家族によれば、半年ほど前に、次男の結婚話をもつれ、「不安で落ち着かない」と訴えるようになった。破談が決まったころから元気がなく、憂うつそうな表情をしていることが多くなった。それでも、パートタイムや家事を何とかこなしていたが、「体がだるい」などと頻繁に訴えていた。そのうちパートタイムの仕事を休みはじめ、家事も滞りがちになった。また、「物覚えが悪くなった、馬鹿になった、治らない病気にかかってしまった」としきりに漏らすようになった。夜は眠っているようであったが、日中も居眠りをしていることがあったという。

最も考えにくいのはどれか。

- a うつ病
- b 適応障害
- c 統合失調症
- d Alzheimer病
- e 甲状腺機能低下症

31 28歳の男性。屋根から転落して左の側胸腹部を強打し、救急車で搬送された。顔面は苦悶様であるが、意識は清明である。胸部で呼吸音に左右差を認めない。左季肋部に広範な皮下出血がある。腹部超音波検査で脾臓の破裂と腹腔内の液体貯留とを認める。

この患者でみられるのはどれか。

- a 徐脈
- b 下血
- c 反跳痛
- d 下腿浮腫
- e 頸静脈怒張

32 32歳の男性。工場の爆発事故で熱傷を受け、救急車で搬送された。口唇を含めた顔面と頸部とに熱傷病変を認める。意識は清明。身長168cm、体重62kg。体温36.5℃。呼吸数24/分。脈拍88/分、整。血圧126/70mmHg。バイタルサインは安定している。

まず調べる部位はどれか。2つ選べ。

- a 眼球
- b 上気道
- c 食道
- d 肝臓
- e 腎臓

33 82歳の女性。咳、痰および呼吸困難のため来院した。3年前から咳と痰とが持続し、特に冬に多くなり、時に労作時の呼吸困難があった。喫煙歴は20歳から1日10本。意識は清明。身長150 cm、体重48 kg。呼吸数24/分。脈拍52/分、整。血圧148/74 mmHg。血液所見：赤血球390万、Hb 12.3 g/dl、Ht 36%、白血球6,000、血小板27万。スパイロメトリ：% VC 88%、FEV_{1.0}% 58%。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)：pH 7.36、PaO₂ 78 Torr、PaCO₂ 43 Torr、HCO₃⁻ 24 mEq/l。

この患者の病態に最も関連する異常所見はどれか。

- a 脈拍
- b 赤血球数
- c % VC
- d FEV_{1.0}%
- e PaO₂

34 32歳の初妊婦。妊娠40週に少量の性器出血と軽度の下腹部痛とを主訴に来院した。これまでの妊婦健康診査で異常の指摘はない。意識は清明。身長158 cm、体重60 kg。体温36.8℃。脈拍88/分、整。血圧132/80 mmHg。胎児は頭位で、発育は良好である。胎児心拍数陣痛図に異常を認めない。破水の所見もない。

この時点で重要でない所見はどれか。

- a 頸管開大度
- b 頸管展退度
- c 児頭下降度
- d 児頭回旋
- e 子宮収縮頻度

35 28歳の初産婦。妊娠38週に陣痛発来で入院した。身長160 cm、体重62 kg。脈拍80/分、整。血圧110/80 mmHg。子宮底33 cm。胎児推定体重は2,400 gで羊水量は少ない。6時間後の内診所見は児頭下降度SP ± 0 cm、子宮口開大4 cmで、破水を認める。胎児心拍数陣痛図(別冊No. 4)を別に示す。

対応で適切なものはどれか。

- a 経過観察
- b 頸管用手拡大
- c 陣痛促進薬投与
- d 吸引分娩
- e 帝王切開

別冊
No. 4 図

36 78歳の女性。1週間前から体幹に痒みとともに水疱が出現し、次第に増加してきたため来院した。発熱と体重減少とはない。口腔内病変を認めない。体幹部の写真(別冊No. 5A)と皮膚生検組織のH-E染色標本(別冊No. 5B)とを別に示す。

蛍光抗体法で免疫グロブリンの沈着を認める部位はどれか。

- a 血管壁
- b 表皮細胞間
- c 表皮細胞核
- d 表皮基底膜部
- e 真皮乳頭部

別冊
No. 5 写真A、B

37 75歳の男性。2日前から38℃の発熱、咳嗽および膿性痰が出現し、労作時呼吸困難も強くなったので来院した。慢性肺気腫で通院治療を受けていた。呼吸困難はHugh-Jonesの分類Ⅳ度である。胸部エックス線写真に浸潤影を認めない。

次に行う検査はどれか。

- (1) 気管支鏡検査
- (2) 胸部単純CT
- (3) スパイロメトリ
- (4) 動脈血ガス分析
- (5) 喀痰 Gram 染色

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

38 35歳の女性。人間ドックで右副腎部に径1.5cmの腫瘤を指摘されて来院した。

身長162cm、体重58kg。脈拍76/分、整。血圧126/78mmHg。血液所見：赤血球400万、Hb13.0g/dl、Ht40%、白血球7,000。血清生化学所見：空腹時血糖96mg/dl、Na142mEq/l、K3.8mEq/l、Cl102mEq/l。コルチゾール18.5μg/dl(基準5.2~12.6)、アルドステロン8.2ng/dl(基準5~10)、血漿レニン活性2.1ng/ml/時間(基準1.2~2.5)。

次に行う検査はどれか。

- a インスリン負荷試験
- b アルギニン負荷試験
- c メトピロン負荷試験
- d デキサメサゾン抑制試験
- e フロセミド負荷試験

39 44歳の男性。視野異常を訴えて来院した。視力は右0.2(1.5×-3.00D)、左0.2(1.5×-3.50D)。眼圧は右13mmHg、左12mmHg。頭部単純MRIのT₂強調横断像(別冊No. 6A)を別に示す。

考えられる視野異常(別冊No. 6B ①~⑤)はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別冊
No. 6 写真A、図B①~⑤

40 日齢0の新生児。出生後30分ころから多呼吸を認めた。在胎32週、出生体重1,600g。体温37.3℃。呼吸数64/分。心拍数160/分、整。チアノーゼ、陥没呼吸および呼気時の呻吟を認める。外表奇形は認めない。心雑音を聴取しない。

この患児で重要な検査はどれか。

- a 新生児マススクリーニング
- b マイクロバブルテスト
- c PIVKA-II
- d 血清IgM
- e CRP

41 73歳の男性。起床時に左上下肢の力の入りにくさと、ろれつの回りにくさどに
気付き、救急車で搬送された。5年前、洞不全症候群のため、ペースメーカー埋込
術を施行されている。意識混濁。身長160 cm、体重58 kg。脈拍60/分、整。血圧
110/68 mmHg。左片麻痺を認め、左 Babinski 徴候陽性。右共同偏視がある。

まず行う検査はどれか。

- a 脳脊髄液検査
- b 脳波検査
- c ミエログラフィ
- d 頭部単純 CT
- e 頭部単純 MRI

42 43歳の男性。健康診断の胸部エックス線写真で腫瘤陰影を指摘されて来院し
た。胸部単純 MRI の T₁ 強調像(別冊No. 7A)と T₂ 強調像(別冊No. 7B)とを別に
示す。

腫瘤の性状として最も考えられるのはどれか。

- a 気体
- b 漿液
- c 線維
- d 脂肪
- e 石灰

別冊
No. 7 写真A、B

43 38歳の男性。自宅で暗赤色の吐血をし、救急車で搬送された。不穏状態であ
る。脈拍128/分、整。血圧80/36 mmHg。皮膚は蒼白で冷たい。血液所見：赤血
球280万、Hb 8.0 g/dl、Ht 24%、白血球9,800、血小板28万、プロトロンビン
時間12秒(基準10~14)。血清生化学所見：総蛋白6.2 g/dl、アルブミン4.0 g/
dl。

適切な輸血はどれか。

- a 近親者からの新鮮全血
- b 赤血球濃厚液
- c 濃厚血小板
- d 新鮮凍結血漿
- e 血液凝固因子製剤

44 34歳の2回経産婦。妊娠32週に性器出血と下腹部痛とがあり緊急搬送され
た。不穏状態である。身長155 cm、体重65 kg。脈拍120/分、整。血圧80/60
mmHg。子宮底長34 cm。内診で子宮口は3 cm 開大し、外子宮口から出血を認め
る。持続的に子宮は収縮しており触診で疼痛を訴える。血液所見：赤沈5 mm
/1時間、赤血球250万、Hb 7.0 g/dl、白血球9,200、血小板3万、血清FDP 60 μg
/ml(基準10以下)、Dダイマー3.0 μg/ml(基準1.0以下)。超音波検査で胎児死
亡が確認され、胎盤後壁にエコーフリースペースが観察された。

まず行う処置はどれか。2つ選べ。

- a 輸血
- b 急速遂娩
- c 抗菌薬投与
- d 抗凝固療法
- e 子宮収縮促進薬投与

45 68歳の女性。1週前に人工股関節全置換術を受け、入院している。手術後の経過は良好であったが、昨日から左下肢の腫脹と鼠径部の痛みとを自覚している。血液所見：赤血球420万、Hb 12.4 g/dl、白血球9,600、血小板12万、血清FDP 16 $\mu\text{g/ml}$ (基準10以下)、Dダイマー 8.4 $\mu\text{g/ml}$ (基準1.0以下)。血清生化学所見：AST 32単位、ALT 20単位、CK 35単位 (基準10~40)。CRP 12.4 mg/dl。

適切な処置はどれか。

- a 冷罨法
- b 歩行訓練
- c 抗凝固療法
- d 下肢のマッサージ
- e 間欠的下肢圧迫療法

46 60歳の男性。呼吸困難を主訴に来院した。身体所見では、顔面、頸部および右上肢に腫脹が認められる。胸部エックス線写真(別冊No. 8A)と喀痰細胞診Papanicolaou染色標本(別冊No. 8B)とを別に示す。

適切な治療はどれか。2つ選べ。

- a 保存療法
- b 手術療法
- c 化学療法
- d 放射線治療
- e レーザー治療

別冊
No. 8 写真A、B

47 66歳の男性。呼吸困難を主訴に救急車で来院した。2か月前から体重減少と嚥下困難とに気付いていた。1か月前から痰を伴わない咳嗽と喘鳴を伴う呼吸困難とが出現し、次第に増強し、不穏状態となってきた。20歳ころから日本酒1日5合の飲酒歴と1日30本の喫煙歴とがある。呼吸数28/分。脈拍104/分、不整。血圧180/90 mmHg。頸部の聴診でwheezesを聴取する。胸部エックス線写真では気管の右方への著しい圧排と高度の狭窄とを認める。

気管支鏡下の処置で最も適切なのはどれか。

- a 喀痰吸引
- b 光化学療法
- c ステント挿入
- d レーザー焼灼
- e エタノール注入

48 2歳6か月の男児。咳と発熱とが続くため来院した。3日前、アーモンドを食べながら遊んでいて急にむせた。それ以来、咳が続いている。2日前から発熱がみられる。体温38.7℃。呼吸数32/分。脈拍96/分、整。心雑音はない。右肺にcoarse cracklesを聴取する。血液所見：赤血球428万、Hb12.7g/dl、白血球18,300、血小板36万。CRP4.8mg/dl。胸部エックス線写真(別冊No. 9)を別に示す。

対応として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 背部叩打
- c 酸素投与
- d 抗菌薬投与
- e 気管支鏡

別冊
No. 9 写真

49 21歳の男性。強い全身倦怠感と腹痛とがあり、家族の呼びかけに対する反応が悪くなったため、救急車で来院した。生来健康であったが、1か月前から口渇と多尿とに気付くようになった。また、体がだるく、朝、起きにくくなっていた。意識は軽度混濁。身長170cm、体重59kg。体温36.1℃。呼吸数32/分。脈拍100/分、整。血圧96/60mmHg。皮膚は乾燥している。結膜に貧血と黄疸とを認めない。心雑音はない。腹部は平坦で、圧痛は認めない。尿所見：蛋白1+、糖4+、ウロビリゲン1+、ケトン体3+。血液所見：赤血球560万、Hb17.0g/dl、Ht52%、白血球9,200、血小板32万。血清生化学所見：血糖860mg/dl、HbA_{1c}11.0%(基準4.3~5.8)、総蛋白8.2g/dl、アルブミン5.6g/dl、尿素窒素32mg/dl、クレアチニン1.8mg/dl、尿酸8.0mg/dl、AST32単位、ALT25単位、Na132mEq/l、K5.8mEq/l、Cl88mEq/l。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)：pH7.23、PaO₂96Torr、PaCO₂19Torr、HCO₃⁻8mEq/l。

まず行う輸液はどれか。

- a 重炭酸ナトリウム液
- b 1/2濃度生理食塩液
- c 生理食塩液
- d ブドウ糖液
- e ブドウ糖加生理食塩液

50 60歳くらいの男性。山林横の道路で意識を消失し、呼吸困難の状態で見送られ救急車で搬入された。呼びかけに反応しない。顔面苦悶状。上半身に蕁麻疹と後頸部に径3cmの発赤腫脹とがある。結膜は充血している。対光反射はある。呼吸数28/分、不整。脈拍128/分、整。血圧70/40 mmHg。胸部全体に wheezes を聴取する。喉頭浮腫を認める。血液所見：赤血球450万、Hb 15.5 g/dl、白血球9,000。血清生化学所見：総蛋白6.2 g/dl、尿素窒素18 mg/dl、クレアチニン1.1 mg/dl、総ビリルビン0.8 mg/dl、AST 38 単位、ALT 33 単位、ChE 600 単位(基準400~800)、アミラーゼ100 単位(基準37~160)、CK 20 単位(基準10~40)、Na 140 mEq/l、K 3.6 mEq/l、Cl 100 mEq/l。動脈血ガス分析(自発呼吸、酸素5 l/分投与下)：pH 7.30、PaO₂96 Torr、PaCO₂48 Torr、HCO₃⁻ 23 mEq/l。心電図には洞性頻脈の他に異常なく、胸部エックス線写真にも異常を認めない。

治療薬で適切でないのはどれか。

- a エピネフリン
- b アミノフィリン
- c 抗ヒスタミン薬
- d 重炭酸ナトリウム液
- e 副腎皮質ステロイド薬

◎ 下記の欄に受験番号および氏名を記入すること。

受 験 番 号	氏 名 (楷 書 で 書 く こ と)